



自分大好き
友達大好き
ふるさと大好き

宮小の子

令和5年度 栗原市立宮野小学校
校長室だより No.1
2023/4/27
発行者 小松 英明

1年生を迎える会を行いました

4月26日(水)の2時間目、体育館にて1年生を迎える会を行いました。

1番はじめは、1年生の入場です。6年生と手をつないで、1年生が体育館に入ってきます。それを5年生が、花輪を掲げて迎えます。他の学年は、音楽に合わせて手拍子で迎えます。入場する1年生は、満面の笑顔です。



計画委員会の代表が歓迎の言葉で「早く仲良くなりましょうね。」と話してくれました。

次は、2年生の学校紹介です。学校紹介のはじめに代表の3人が、ラップを披露してくれました。「よう、よう、宮野小」最後が「う」で終わるようにちゃんと韻を踏んでいます。「自分大好き、友達大好き、ふるさと大好き、宮野小」いい感じです。学校教育目標をラップにして、2年生が1年生に伝える学校って他にあるでしょうか？ちょっとステキすぎました。その後は、呼びかけで、宮野小学校のよさを伝えていました。プール、遊具、休み時間等々、宮野小学校のよさを次々に伝えてくれました。

1年生からは、自己紹介がありました。自分の名前+好きな〇〇でした。「私の名前は、〇〇〇〇です。好きな色は、赤と青と緑と黄色と。。。」楽しい自己紹介が続きます。その中で驚きの紹介がありました。(ちょっと職権乱用のような気がしますけど..)「僕の名前は、〇〇〇〇です。好きな友達は、校長先生です。」はじめは、よく分からなかったのですが、内容を理解してからは、もう嬉しくて嬉しくて仕方ありませんでした。この前、校庭の木の洞で冬眠していた蛙のことを教えて見せてくれた子です。私もすごいと思って見せてもらったんですが、喜んでもらえていたんですね。1年生に友達って言ってもらえるなんて夢のようです。これからもっと1年生の友達を増やせるようにいっぱい1年生と関わろうと思いました。



6年生の出し物は、宮野小学校に関する〇×クイズでした。題して「宮野小学校安全点検隊クイズ」です。6年生は、昨年度から先生方と一緒に月に1回、校地内の安全点検を行ってくれています。その成果を活かして、宮野小学校の遊具の使い方について、〇×クイズを作ってくれました。AとBの二つの動画を見せて、どちらが正しい遊具の使い方かを問題にしてくれました。楽しいクイズで、1年生も遊具の使い方をしっかり理解することができたと思います。クイズの最後には、「AとBの二つの動画を見せましたが、危ない使い方の動画は、先生と一緒にこのクイズのために撮影したものです。まねをしたりしないで、安全に遊んでください。」としっかり話していました。流石です。

最後に全校で校歌を歌いました。はつらつとした歌声でした。体育館いっぱいに響きました。今までは、校歌を全校で歌うことにも躊躇しなければならなかった状況でした。ようやくそれが終わろうとしています。歌声を聞きながら嬉しくなっていました。

1年生を迎える在校生の気持ちを感じる会になりました。1年生も楽しんでもらえたようです。これからもみんなで楽しく過ごしましょうね。



みんなに知らせたい

今日の宮小っ子



学習参観日

先日の授業参観の時のことです。授業参観の時間が近づき、保護者の皆さんが集まってきました。校庭に車が入り始めました。淳一先生は、校舎前の駐車場で誘導してくれていますから、校庭には誘導する人がいません。でも、皆さんはいつもの申し合わせのとおり、奥から順に車を停車しています。

その姿を職員室から見ていた今年転入した先生がぼつり「誰も誘導がついていないのにちゃんと奥から並べて停めてくれるんですね。」それに答えて嬉しそうに小職、「そう、それが宮野小学校です。この親があって、この子どもたちがあるのです。」

PTA 総会後の会場の撤去でも私は同じ気持ちになりました。みんなで一斉に片付けていただきました。保護者の皆さんのその姿勢、その行動、その考え方が、子どもたちに染みて、育っていくのだと思います。

皆様のご協力で改めて感謝申し上げます。そして、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

恩送り

1年生の担任の先生や他の先生から、毎日、ある6年生が1年生の教室に通って、遊んでくれているという話を聞きました。ただ遊びに来ているだけではありません。1年生は、重いランドセルから教科書やノートを取り出し、後ろのロッカーにランドセルをしまったりしなければなりません。それをいつもいつもお手伝いしてくれているのだそうです。荷物の整理だけではありません。名札をつけてあげたり、校歌を一緒に歌ったりしてくれているそうです。

本人に話を聞いてみました。本人は、恥ずかしそうに「担任の先生が、子どもを迎えに行くときに『先生が戻るまで、1年生を見てくれる。お願いね。』って、頼まれたからです。」とっていました。

でも、それでは毎日行きませんよね。きっと、1年生の教室に行きたくなる何かがあるのだと思ってさらに聞いてみました。「自分が1年生の時、やっぱり6年生って来てくれたの？覚えている？」すると、すぐに「自分が1年生の時、6年生が来てくれて、一緒にカードゲームをしたんですよ。楽しかったです。」という答えが返ってきました。

やっぱりそうだったんですね。自分がしてもらったことを覚えていて、立場が変わったら今度は自分がしてあげていたんですね。その6年生に向かって、「恩送り」の話を見せてもらいました。

「恩送り」は、江戸時代の文献に出てきているそうです。私がこの言葉を知ったのは、東日本大震災の被災地のお坊さんが檀家の人に話したのをテレビか何かで見たときだと記憶しています。檀家の人や、ボランティアの人たちにどうやって恩返しをしようかと思案していた場面で、お坊さんがその人に返そうとするのではなく、恩送りという考え方もあるのだと話していた場面だったと思います。

意識せずに普通に「恩送り」をしている宮野小学校の6年生、すばらしいと感じました。時代や地域、価値観によって、「普通」は変化します。今の宮野小学校の「普通」は、とってもしばらしい「普通」だと再確認しました。自然に「恩送り」ができる宮小っ子の姿を見ながら、人生の後半を迎えた小職も今まで受けた様々な人たちからの恩を送っていきたいと思われました。

